



貞松 茂 教授

貞松茂教授の退職記念号に寄せて

熊本学園大学 学長 幸 田 亮 一

貞松茂先生は、1983年に西南学院大学大学院経営学研究科博士後期課程を単位取得退学され、1992年に当時の熊本商科大学の商学部に助教授として着任され、1997年には教授に昇格されました。この間、2003年には博士（経営学）の学位を明治大学より授与されています。

先生のご専門は証券論で、研究成果として『株式会社支配の研究』（ミネルヴァ書房、1994年）、『コーポレート・コントロールとコーポレート・ガバナンス』（ミネルヴァ書房、2004年）という単著の力作を世に問われている他、『株式会社支配論の展開』や『コーポレート・ガバナンスの国際比較』など多数の共著も出版されています。これらに学術論文と学会発表を加えて業績リストを眺めると、先生の着実な研究の積み重ねに改めて感心させられます。さらに先生は、本学と中国工商银行の共同研究プロジェクトの主要メンバーとして、本学ならびに中国でシンポジウムに参加され、日中共同研究の発展にも貢献されてきました。

また、先生は、第二部商学科長、大学院商学研究科長をお務めになり大学運営にも大きな足跡を残されました。とくに大学院商学研究科長の時には、経営学研究科との統合という大きな課題を抱えられ、様々な困難をひとつひとつ解決されて、商学専攻と経営学専攻を有する新たな商学研究科の誕生に尽力されました。この当時、私は経営学研究科長として準備委員の一人でしたが、先生の丁寧で着実な仕事の進め方は誰も反対できないもので感嘆した覚えがあります。いま振り返ってみても貞松先生以外ではあのようにうまく統合を進めることはできなかったと思います。

先生の研究室は12号館の5階にありました。私も赴任してしばらく同じ階に研究室を貸与されたので時々話を交わすようになり、もっとも早く親しくさせて頂いた先生のお一人です。また、商学部教授会でも近い席に座りよく話を聞かせていただきました。温厚な先生は学生にも人気で、ゼミでのご指導も穏やかな雰囲気でごなされていたようですが、締めるところは締めるといことで学生の成長を暖かく励ましてこられたと聞いています。

1992年より長年にわたって熊本学園大学の発展にご貢献頂いた貞松先生は2016年3月をもってご退職となり、その後、名誉教授とされました。先生はその前から健康上の理由で早期退職を希望されていたのですが、大学の都合でお引き留めして、まことに申し訳なく思っております。

これから先生の残された財産を大切に活かして、地域においてさらに輝く大学に発展させていくことが後進としての私たちの役目です。

貞松茂先生の今後のご健勝とご活躍を心より願ってご挨拶に代えさせていただきます。

貞松茂先生の退職記念号に寄せて

熊本学園大学 商学部長 池上 恭子

貞松茂先生は、昨年2017年3月をもって本学を退職されました。長年にわたる熊本学園大学および商学部に対するご貢献に感謝の意を表して、『商学論集』の退職記念号を発刊することになりました。

貞松先生は、1983年西南学院大学大学院経営学研究科博士後期課程を単位取得退学され、1992年に熊本商科大学に赴任されました。西南学院大学では、後藤泰二先生のもとで株式会社支配論を研究され、1994年に『株式会社支配の研究』（ミネルヴァ書房）を刊行されました。1980～90年代ころから、コーポレート・ガバナンスの議論が高まってきましたが、貞松先生はいち早く2004年に『コーポレート・コントロールとコーポレート・ガバナンス』（ミネルヴァ書房）に、それまでの株式会社支配論の議論を踏まえ、コーポレート・ガバナンスについてまとめられました。これにより、明治大学より博士号（経営学）を授与されました。また、本学と中国工商銀行との『日本・中国金融プロジェクト』においては、急速に成長していく中国工商銀行に対してたいへん示唆に富む「銀行業におけるコーポレート・ガバナンス」について度々報告されました。

学部では専門の「証券論」の講義をご担当になるとともに、長い間、商学部主催の単位認定のインターンシップの取りまとめや野村証券寄付講座のお世話をさせていただきました。また、大学院では、「証券経済論」（修士課程）と「株式会社論」（博士課程）のご担当に加え、地元企業の経営者を講師とする「ビジネス倫理」のコーディネーターもご担当いただきました。このように、学内だけでなく、学外の方々からも信頼が厚く、地元企業と大学との連携の基盤を築いてくださいました。

2008年4月～2012年3月には、大学院商学研究科長をお務めになりましたが、任期中に商学研究科に商学専攻と経営学専攻の2専攻を置くという改組を実施され、大学院の運営にも大きく貢献されました。

貞松先生は、ご体調もすぐれず、早期の退職を希望され、退職後のご計画もお考えでしたが、学部の事情により度々お引き留めしました。貞松先生は、誠実で穏やかなお人柄で、いつも大学のことやまわりの方のことをご配慮される方ですので、そのご厚意に甘えてまいりました。ここに、大学および学部のために多大なるご貢献を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。どうぞ、これからのご健勝をお祈りしております。